

## 開催趣旨

2015年パリで開催された第21回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）において、2020年以降の気候変動対応の国際枠組みとなるパリ協定が合意されました。パリ協定では、全球平均気温上昇を産業革命以前比で2°C未満に十分に抑える、また1.5°C未満も追求する、さらには21世紀後半に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、などの目標も合意されました。そして、2020年までに自国の「長期低排出発展戦略」を作成・提出することが定められました。環境省、経済産業省はそれぞれ関連する検討会を立ち上げ、検討が行われてきているところです。そこで、本シンポジウムは、日本学術会議エネルギーと科学技術に関する分科会が先に公表した報告「パリ協定を踏まえたわが国のエネルギー・温暖化の対策・政策の方向性について」に加え、政府の「長期低排出発展戦略」に関連した検討結果や米国トランプ政権のパリ協定離脱といった国際政治動向を踏まえながら、我が国の今後の「長期低排出発展戦略」のあり方とその実現に向けた方策について、より良い理解を進めることを目的として開催いたします。

# 日本学術会議公開シンポジウム パリ協定の下での 長期温室効果ガス排出削減戦略を考える

13:00

開会挨拶

鈴置保雄

日本学術会議第3部会員、愛知工業大学 工学部 教授、名古屋大学 名誉教授

13:05

「パリ協定を踏まえた長期目標と国内での議論の動向（課題提起）」

山地憲治

日本学術会議連携会員、公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長、東京大学 名誉教授

13:35

「気候変動予測、影響、リスク管理」

江守正多

日本学術会議連携会員、

国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室 室長

14:05

「グローバルな視点での大幅排出削減」

秋元圭吾

日本学術会議連携会員、公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 システム研究グループ グループリーダー

14:35

「長期地球温暖化抑制におけるイノベーションの役割」

杉山大志

キヤノングローバル戦略研究所 上席研究員

15:05

「カーボンプライシング：削減効果とグリーン成長」

有村俊秀

早稲田大学 政治経済学術院 教授、同大学 環境経済経営研究所 所長

15:35

休憩

15:50

総合討論

司会：山地憲治 パネリスト：有馬純（東京大学 公共政策大学院 教授）、江守正多、秋元圭吾、杉山大志、有村俊秀

17:20

閉会挨拶

日時：平成29年9月27日（水）13：00～17：25

会場：日本学術会議 講堂

東京都港区六本木7-22-34（東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口）

参加費：無料（先着順 定員300名、事前申込不要 \* 入場時にお名刺またはご記帳いただきます）

■主催 日本学術会議 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会

■共催 一般社団法人 エネルギー・資源学会

■後援 一般社団法人 日本エネルギー学会、環境経済・政策学会、他

■問合せ先 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 秋元圭吾 E-mail: aki@rite.or.jp